

令和8年産 コメ通信

第8号（令和8年7月24日）

【発行】
北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

出穂は早い！！登熟を促進する水管理を！

1 気象経過と生育状況

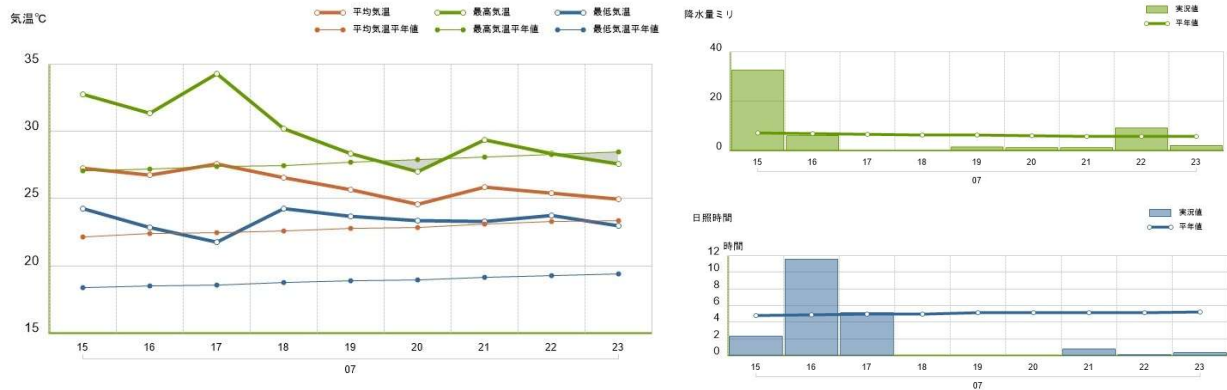


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

【気象経過】

- 7月15日～23日の気象は、平均気温が平年の最高気温に届く日があるなど、気温がかなり高く推移しました。また、曇・雨天の日が多く、日照時間は少なく推移しました。
- 仙台管区气象台発表の1か月予報（7月23日発表）によると、向こう1か月の天気は、気温は高く、降水量・日照時間は平年並と予想されています。

【生育状況】

- 7月24日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は平年と比べ草丈が長く、茎数が多く、葉色がやや濃くなりました。
- 調査ほ場の多くで出穂し始めており、生育が早いほ場では出穂期（50%出穂）になっています。

【出穂期の予測】

- 日平均気温から算出したあきたこまち（中苗）の出穂期は、田植え日が5月20日の場合で7月28日頃（平年値8月2日）と予測されます（表2）。
- すでに穂が見えはじめているほ場もあり、今後も気温が高くなる見込みのため、予測よりも早く出穂期となる可能性があります。ほ場ごとに生育を確認し、防除や水管理を実施してください。

表1 定点調査結果（7月24日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色
本年	81.3	547	12.9	39.6
平年	77.7	491	12.6	38.9
前年	85.7	481	12.9	39.6
平年比	105%	111%	+0.3	102%
前年比	95%	114%	±0	100%

※平年は過去10か年の平均値を示す。

※葉色はSPAD-502で測定した。

表2 あきたこまち（中苗）の出穂期予測（アメダス鷹巣）

田植日	出穂期（平年値）
5/15	7/25（7/31）
5/20	7/28（8/2）
5/25	7/31（8/4）
5/30	8/3（8/5）

※7月24日以降は平年値で計算した。

※出穂期：全茎数の40～50%が出穂した日

2 当面の水管理～登熟向上に向けて～

- 出穂期までは間断かん水が基本となります。出穂期から開花期は水を多く必要とする時期なので、出穂後10日間は湛水状態にして水を切らさないようにしてください。その後は、間断かん水を基本とします。
- 用水を十分に確保できる地域では、気温が30℃を超える暑い日にかけ流しかん水等を行うことで地温を下げ、根の機能減退を防止しましょう。
- かけ流しかん水が困難な地域では、開花期後は落水期間の短い間断かん水や午前にかん水するなど、水分供給と地温の低下に努めます。
- フェーン現象など乾燥した風が強く吹く日は湛水状態を保ち、水分蒸散による稲体の消耗を軽減します。
※水深が浅い場合、水温が上昇しやすくなるため、水深はしっかり確保しましょう。
- 早期に落水すると葉色の低下や枯れ上がり、根の機能減退などに繋がるため、落水時期は出穂後30日以降とします。
- カドミウム含有米の発生防止対策地域で、「あきたこまちR」以外を作付しているほ場では、出穂期3週間後まで湛水管理を継続し、カドミウムの吸収を抑制してください。
- 今後、降雨が少なく、昨年のような水不足が発生した場合は、下記を参考に対策してください。

<水不足等で用水の確保が難しい場合>

- 溝切り跡への通水等により、土壤水分を補給し、夜間の地温低下を図ってください。
- 穂揃期の前後は稲の吸水量が大きいため、かん水不足で稲が萎れないよう注意します。
- 用水が地域全体に行きわたるようこまめな水回りを行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに入水を止めてください。また、漏水がないよう畦畔の補修に努めましょう。
- 地域農家や関係機関と協力して節水管理に努め、入水時間を申し合わせるなど、計画的な用水の供給に努めましょう。

3 主要病害虫の防除対策 ～ドリフトに注意！～

※飼料用米も主食用米と同様に、病害虫防除を行ってください。

※生育が早まっているため、防除のタイミングを逃さないようにしましょう！

【いもち病】

- 一部のほ場で葉いもちの病斑が確認されています。ほ場の見回りを徹底し、病斑の早期発見に努めてください。
- 葉いもちの発生がある場合は、穂いもちの防除として出穂15～7日前にコラトップ剤（1キロ粒剤12・粒剤5・豆つぶ）またはゴウケツ粒剤/サンブラス粒剤のいずれかを散布するか、出穂直前にトライフロアブルまたはビーム剤を、穂揃期にトライフロアブルまたはラブサイド剤を茎葉散布します。
- 葉いもちが多発しているほ場では、必要に応じて、傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行ってください。

◆農薬の使用回数に注意！

本田での防除薬剤の使用回数は、トライ剤の成分であるテブフロキンで2回、ラブサイド剤の成分であるトリシクラゾール及びビーム剤の成分であるフラサイドはそれぞれ3回以内となっています。総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。

【斑点米カメムシ類】

- 全国的に斑点米カメムシ類の発生が早く、今後の気温上昇に伴った活動の活発化や発生量の増加が懸念されます。防除時期及び薬剤を適切に判断し、被害防止に努めましょう。
- 病害虫防除所の調査（7月17～23日実施）では、県北の本田内のすくい取り数が「やや多」となっています。特にあきたこまちRは、割れ粃が多く、斑点米の発生が多くなりやすいことから、以下の防除対策を徹底してください。
- 出穂したノビエやホタルイなどのカヤツリグサ科雑草が見られるほ場、イネ科植物が主体の牧草地や休耕田等に隣接するほ場では、(1)及び(2)の2回防除を必ず実施してください。その他のほ場では、(1)の1回防除を実施してください。
 - (1) 1回目の防除は、スタークル剤または、アルバリン剤を出穂期の10日後頃に畦畔を含めて茎葉散布し、その後7日以内に農道や畦畔の草刈りをします。
 - (2) 2回目の防除は、キラップ剤（収穫14日前まで）または、エクシード剤（収穫7日前まで）を出穂期の24日後頃に畦畔を含めて茎葉散布します（表3）。
- 法面や休耕田等の雑草地では稲の出穂10～15日前から収穫2週間前まで草刈りをしないでください。
- 近隣に水稻以外の作物（野菜等）がある場合や養蜂業者がいる場合は、薬剤散布前に必ず情報共有してから作業を実施してください。

表3 斑点米カメムシ類の防除薬剤

	薬剤名	希釈倍数	散布量 (/10 a)	散布時期
1 回目	スタークル粉剤 D L	—	3 kg	出穂期 10日後頃
	アルバリン粉剤 D L			
	スタークル液剤10 スタークルメイト液剤10	1,000倍	150 L	
2 回目	キラップ粉剤 D L	—	3 kg	出穂期 24日後頃
	エクシード粉剤 D L			
	キラップフロアブル エクシードフロアブル	2,000倍	150 L	

4 お知らせ

カドミウム汚染米発生を防止しましょう！！

- 「あきたこまちR」以外の品種を作付しているほ場では、出穂前後3週間の湛水管理を**必ず実施**してください。
- J A・主食集荷商業協同組合加入業者**以外**の集荷業者や消費者へ直接販売する場合は、出荷前にロット調査によるカドミウム分析を各自で実施してください。



詳しくは↑

令和8年度農薬危害防止運動（令和8年6月1日から8月31日まで）

近年、全国で農薬の使用に伴う周辺住民等に対する被害事例が発生しています。農薬の使用時は周辺への飛散防止に努めるとともに、農薬ラベルによる使用基準（単位面積あたりの使用量や希釈倍率等）の確認と使用履歴の記帳を徹底しましょう。

熱中症に注意！！

農作業中に熱中症になる人が増えています。こまめな休憩や水分・塩分の補給、帽子・空調服の着用などの対策で、熱中症を予防しましょう。



（↑詳細）

ツキノワグマに注意！！

人の生活圏でのクマの目撃件数が増加しています。農作業時は、対策グッズを用意するなど、十分に注意しましょう。



ツキノワグマ情報 | 英の国あきたネット
www.pref.akita.lg.jp

問い合わせはJ Aまたは農業振興普及課まで～次回発行は8月中旬頃～